

1月29日(金曜日)

ドル/円

欧州の事件に巻き込まれる相場に

28日(木)の主な推移

ダウ平均株価

10120.46ドル
(-115.70ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.6479%
(-0.0058%)

NY原油先物

73.64ドル
(-0.03ドル)

チャート: 30分足 28日(木)朝7時 ~ 29日(金)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 日経平均が上昇するに連れてクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)で円安が進んだことや、仲値決済に絡んだ円売り・ドル買いが入ったことにより、円安・ドル高が進行した。11時からオバマ米大統領の一般教書演説が行われたが、ドル/円への影響は限定的だった。
- ② アジア株やダウ平均株価先物の上昇を受けて欧州勢が円売りで参入する中、ドル/円でも円安が進行し、18時過ぎには90.54円の高値をつけた。しかし、ギリシャに加え、ポルトガルの信用不安が意識されたことにより、ユーロ/円でユーロ安・円高が進むと、ドル/円もそれに連れて円高基調に転じた。
- ③ 22時30分に発表された米新規失業保険申請件数は47万件(市場予想は45万件)、米耐久財受注は前月比+0.3%(市場予想は+2.0%)と、双方予想よりも弱い結果となったことで米長期金利が低下し、ドル/円のドル売り・円買い要因となった。さらに、日本時間29日0時頃、格付け会社S&Pがレポートにて英国の金融システムや経済の先行きについての懸念を示すと、ポンド/円で急速にポンド安・円高が進行。これに連れてドル/円でも89.62円まで一時円高が進んだ。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融新規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.70-90.70円

本日1番の注目材料は米国の2009年第4四半期国内総生産(GDP)・速報値だ。前回、5四半期ぶりにプラス成長となったが、今回はその上げ幅をさらに拡大できるかが焦点となる。予想を上回る強い結果が出れば、ドルが買われよう。

ただ、足元ではギリシャ、ポルトガルを筆頭に欧州の経済先行きにまつわる不安が広がっており、リスクを意識させる材料に対してかなり神経質な相場となっている。ポンドも好悪材料に乱高下している状態だ。こうしたリスクを意識させるような要人発言、あるいは経済ニュースなどが出れば、クロス円主導でドル/円でも円高が急激に進行する可能性もあり、注意が必要だ。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/29(金)	22:30	◎	(米) 2009年第4四半期GDP・速報値[前期比年率]	+2.2%	+4.7%
		○	(米) 2009年第4四半期個人消費・速報値[前期比]	+2.8%	+1.8%
		○	(米) 1月シカゴ購買部協会景気指数	58.7	57.2

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com